

# 美術科

『多面的思考で、相互に制作の幅を広げる授業づくり』



飯村 浩晃

## テーマ 「多面的思考で相互に制作の幅を広げる授業づくり」

## 1. テーマ設定の理由

多くの生徒は、画家・芸術家になるために美術の授業を受けている訳ではない。

美術教育は、美しいものを美しいと感じ取れる力、あるいは美しさを表現する力を付けるのがベースだが、その技能を通して得ることのできる能力は、①基礎として、全ての言語能力の元となるイメージする力を育むこと、②発展として、コミュニケーションの力を育むことだと考える。

①イメージする力とは、思考するための素材を自分の頭の中に描く力である。人間が言葉を活用する時には、先ず具体的な色や形、様子などを「像」として頭の中にイメージし、そのイメージを文字や言葉に変換することによって論理的思考が初めてできると考えるからである。例えば文章読解をするとき、文章に書かれている事柄を頭の中でイメージする事から理解が始まる。このイメージする力を最大限に引き出せる力を育む教科は、学校教育の中で美術科が一番得意とする所であり、最も重要な基盤となる活動であると考えられる。

②コミュニケーションの力は、義務教育を終えて社会で生活していく「生きる力」としての人間形成に最も重要な要素のひとつであるからである。美術は多くの場合、創造者で有る作家（本人）だけでは成り立たない。鑑賞者である他人がいてこそ、作品に対する評価が生まれ、わかり合い、認め合い、美しさの共有ができる。人と関わりをもつ活動を続けていくことで、社会性を身に付ける力になると考える。

イメージし、コミュニケーションを通して相互にイメージの幅を広げる活動を繰り返していく中で、多面的思考が深まり、より良い作品制作や学びに繋がる活動になるように、このテーマを設定した。

昨年度の研究副題は「基盤となる論理的思考力を高める授業づくり」であった。

美術科において基盤となる論理的思考力を身に付けるためには、まず自分で作品制作のイメージをつくり、それを他者とのコミュニケーションを通じてふくらませ、またイメージを再構成することを繰り返してスパイラル状に高めていく活動が有効だと考える。頭の中でイメージした事を他者と共有するためには、イメージした事を「言葉や絵」などの他者にも理解できる形に変換してアウトプットするという作業を行う。その時に、どうしたら自分のイメージした事を正確に他者に伝える事ができるかを論理的に整理して試行錯誤する必要があるからである。

この活動は、とくに制作前のアイデアスケッチ等の段階で作品制作を補助するとても重要な側面を持っているが、アイデアスケッチに限らず、制作中に他者とのコミュニケーションを通してより良い作品に修正していく際や、作品の鑑賞時に自分の考えを作者や他者に伝える際、他者の意見を聞いて返答する際など、美術教育を通して行われる全ての活動である。

そこで、効果的に基盤となる論理的思考力を高めるために、小グループによるディスカッションやワークシートを使い、作品制作の手がかりになるヒントや構想の言語化を行い、より論理的で整理された頭で、作品制作に取り組めるようにしたいと考えた。

また、鑑賞の場面でも、作品という文字情報ではない言語表現を読み取り、その上でコミュニケーションをはかる、総合的な力を育む活動に取り組みたいと考えた。

基盤となる論理的思考力は、美術科の全ての活動の中で全ての要素が含まれているが、より重要なものをピックアップして下表に記した。

	思考スキル	教科としてのとらえ方 および 活動の具体例
1	分類する	制作の導入：課題内容の特徴を捉え、自分の生活や知識に照らし合わせて分類する 制作の導入：他者と自分のアイデアを見比べ、特徴ごとに分類する 鑑賞：複数の資料や作品を観て、特徴ごとに分類する
2	関係づける	制作の導入：課題内容の特徴を捉え、自分の生活や知識のつながりや関係を見つける 制作の導入：他者と自分のアイデアを見比べ、つながりや関係を見つける 鑑賞：複数の資料や作品を観て、ものごとのつながりや関係を見つける
3	比較する	制作の導入：課題内容の特徴を捉え、自分の生活や知識と比較する 制作の導入：他者と自分のアイデアを見比べ、それぞれの共通点や相違点を見付ける 鑑賞：複数の資料や作品を観て、それぞれの共通点や相違点を見付ける
4	順序づける	制作：道具や素材、時間を踏まえて、重要度や段取りを順序づける 鑑賞：複数の資料や作品を観て、自分の価値観での順序や重要度を見分ける
5	類推する	制作：道具や素材、時間を踏まえて、より良い手順を推しはかる 鑑賞：資料や作品を観て、表面に出ていない情緒を推しはかる
6	構想する	制作の導入：自分のアイデアをイメージするため課題や自分の持っている素材を元に構想する 鑑賞：資料や作品を観て、課題解決に向けた道筋を考える
7	評価する	制作の導入：他者と自分のアイデアを見比べ、自分の考えで指摘する 鑑賞：資料や作品を観て、自分の考えで指摘する
8	要約する	制作の導入：課題内容から読み取れることを簡潔にまとめる 制作の導入：他者と自分のアイデアを見比べ、読み取れることを簡潔にまとめる 鑑賞：資料や作品を観て、読み取れることを簡潔にまとめる

## 2. 本年度の研究について

さて、本校の研究主題は「仲間とともに育む柔軟な思考力」（2年次）であり、また本年度の副題は「多面的に考える力を高める授業づくり」である。多面的に考えるためのポイントとして、自分の考えと他者の考えを見比べ吟味し、自分が気づいていなかったことに気づき、自分の考えを見直すこと、また、自分の考えを統合して新しい考えをつくりだすことだと、全体総論では述べているが、美術科では別のアプローチで多面的に考える方法も可能であり、それこそが創造でありイメージの神髄であると考えている。

多面的に考える力とは、2つのアイデアを1つにまとめ、あるいは関連付けて、新しいアイデアを生み出すことだけに留めてはいけない。道筋立てて論理的に展開する答えには限界がある。同程度の教養や情報を持ち得た者であれば、高度であろうと誰でも同じ答えに辿り着ける可能性があり、そこには個性がなく、幅もないイメージしか存在しない。

一方、個性や幅を持つ事が出来る多面的なアプローチとは「ひらめき」である。道筋立てて論理的に展開する最中きらりと浮かんだひらめきは、それはまるでダーウィン進化論の突然変異のように、それぞれに個人差があり、とんでもないものや逆効果で消えて絶滅するものもあるが、また新しい種へと進化する可能性を秘めている。

もちろん、論理的に考え自己や他者の考えを見直し統合する活動は、将来社会へと活動の場を移す生徒の人間形成にとって重要な要素のひとつであり、必要なことであると考えている。

「ひらめき」を引き出すための多面的な活動として大切なことは、3つであると考えている。

ひとつ又は決まった数の答えしか出ないような限定的な課題を提示しないこと。
課題解決に至る行程で強い制約を付け、活動の自由を限定すること。完全に自由で何をしても良いのでは、今までの経験に基づいた既存のイメージしか出ません。それは甘いトマトを栽培するために、あえて水の与える量を減らして極限の状況で糖分を2倍以上に高めるブリックスナインのように、制約の中でより良いひらめきを求めるもの。
生徒同士でイメージしコミュニケーションを図る場を、授業のあちこちに点在させること。制作中のコミュニケーションの中で、課題を理解し、道筋をイメージできる環境のなかで、ひらめきも生まれると考える。

具体的には、本年度の活動でパフォーマンスにチャレンジしている。生徒達は、現代アートやパフォーマンスを学びながら、自分達でどういった活動をしたのかを考え、計画を立ててきた。

しかし、外部機関と連携し学校外での活動になるため、どうしても時間面や予算面、技術面で物理的に制約が多い。本発表までに使える授業時間数は何時間で、使える機材や持ち込める機材も限度があって、購入できる備品はいくらまで…という具合である。

本来はウィークポイントであるそれらの制約を逆手に取って、自分達の実現したいことと、出来ないことを吟味し、その中から妥協点を見付ける作業の中で生まれる「ひらめき」を引き出したいと考えている。

それらの実践をする中で、問題解決に向けた多面的な考え方と、ひらめきを引き出すためには、どういった工夫が効果的なのかを軸に研究を進めている。

### 3. 成果と課題

今回は特に、初めに課題に対して制約などを考えずに大きくイメージを広げること、次に制約を与えてイメージを絞込んで考えを深めること。この2点を重視した。

イメージを最大限に広げる活動を行うことで、可能性の視野を広くもつことができる。また、制約を付けることで、限られた可能性の中から、最も自分の理想のイメージに近づけるには、どうすれば良いのかを深く思考することができる。さらに、制約以上のことを生み出す頭の柔らかさ（ひらめき）を、生徒同士でコミュニケーションを多面的に取り合う事で、引き出そうとした。

結果として、上記のような「ひらめき」に価する作品やアイデアを出した生徒は、各クラスで数名みられたものの、そんなに多くないといった印象だった。

「ひらめき」を期待する方法として、1つめに「言葉かけ・設問」を工夫して、より効果的な方法を模索していきたい。また、2つめに「話し合いにかかる時間」のさらなる確保が必要なのではないかと感じた。

また、テストの点数に反映する教科ではないので、違う方法で行なった場合との比較や具体的なデータが取れないのが残念だが、今回の研究授業では、授業の最初と最後に同じアンケートを取って、前後の動きを看取る方法を行なって見えてきた部分があった。

次年度の研究からは、積極的にアンケートをとり、生徒の感じた「ひらめき」を取り上げる工夫を模索していきたい。

## 実践1 3年生

授業者 飯村 浩 晃

### 1. 単元名 パフォーマンス ～附中生から未来へのメッセージ～

### 2. 単元観

当該学年3年生は小学校からの図工・美術の締めくくりの学年である。アート・プロジェクトの活動は美術科の全領域に渡る複合的な活動である。計9年間の図工・美術教育および学校教育の集大成として、今まで各教科や学校生活で得た知識や技能、習得したことを総合的に生かし、アート・プロジェクトに全員で取り組みたい。また受験を控え精神的に不安定な中学3年生が、期待や不安を書き出し、グループになって話し合い、期待や問題を整理したり、それをテーマにして学年全員で取り組む活動を通して、精神の安定と未来への期待の安定をはかりたい。

今回は、パフォーマンスというアート・プロジェクトにチャレンジする。パフォーマンスにチャレンジするのは、当該生徒が自分達で下した選択である。指導者は「中学校3年のこの時期に、学年全体でアート・プロジェクト活動を行う」という大枠のみを提示し、生徒が「何を表現したいのか、どのように表現したいのか」は、生徒達自身で考えさせた結果である。また、テーマは、主題に「附中生から未来へのメッセージ」副題に「社会へ飛び立つ僕達の未来を想像（創造）しよう」と決め、具体的な内容としては「義務教育を終え、遙か彼方社会の荒波へ巣立って行く附中3年生達が、未だみぬ未来への期待・希望・不安を、想像して創造し、身体全身で表現する」ということに決定した。

生徒たちから出たキーワードとして、期待・希望では「出会い・未知の環境・生活・希望をつかみたいという思い」また不安・危機感では「受験・未知の環境・自立・責任の重さ・見通しがつかない・失敗」という言葉が挙がった。

授業で扱うアート・プロジェクト（パフォーマンス）を支える上で、コンセプト（深い思索や思考）が大切だと考える。何を表現したいのか、何故表現したいのか、どうすればより効果的にそれが表現出来るのか。それらを自分自身で見付け、掘り出し、構築するプロセスは、要所で多面的な思考を必要とする。

当該学年の生徒達は、1 & 2年生の時に先輩が行ったアート・プロジェクトを鑑賞しており、また現代アートに対する鑑賞活動も行っているため、活動に対するハードルは比較的低い。しかし一方で、自分自身の置かれている立ち位置を客観的に捉えてのテーマ決定や、パフォーマンスの内容考察に関しては中々アイデアが出ずに苦戦していた。

生徒一人一人がそれぞれの立場で意見を出し合い、また他者の意見を自分の意見と比べながら、新しいアイデアやひらめきをイメージできるよう、グループワークの中で支援していきたい。

### 3. 単元の目標

- |   |
|---|
| ①現代アートやパフォーマンスの意味を理解し、自分のテーマを装置に反映させ、主体的に参加できる。 |
| ②自分や学年の置かれた雰囲気を感じ取り、テーマを設定することができる。             |
| ③テーマに合ったパフォーマンスやコスチュームを構想することができる。              |
| ④テーマを意識し、観客に向けて一丸となってパフォーマンスすることができる。           |

### 4. 単元の評価規準

ア 関心・意欲・態度	1 現代アートを知り、自分たちも良い作品を作ろうとする 2 予定地である奥山公園を、興味をもってじっくり観察する 3 段取りを確認し、本番に向けてイメージすることができる 4 テーマを意識し、観客に向けて一丸となってパフォーマンスすることができる
------------	--

イ 発想や構想の能力	1 自分の内面を見つめ、今回の制作のベースとなるテーマを考えることができる 2 テーマに合ったパフォーマンスの内容や衣装を、作家の作品を元に考えることができる 3 テーマを元に、これまで出たアイデアを元に、効果的な見せ方を考えることができる 4 テーマに沿ったパフォーマンスをするには、どうすれば良いのか積極的に話し合うことができる
ウ 創造的な技能	1 テーマを意識して、練習に取り組み、本番のイメージをもつことができる 2 テーマを意識して、本番に取り組むことができる
エ 鑑賞の能力	1 奥山公園の、作品設置前の状態を鑑賞し、自然や黒川紀章の意匠を感じることができる 2 自分たちの行なったパフォーマンスを鑑賞し、テーマを再確認し深めることができる

#### 5. 単元の計画（次項の指導案は全15時間中10時間目）

学習内容	教師のねらい	多面的に考える活動・協同学習	評価
知る (1時間)	現代アートの意味を理解し、思いつく限り最大限にアイデアを広げ、発表させる。	今までの経験を振り絞り、色々な角度からアイデアを出し合う。	アー1
現地視察 (1時間)	予定地である美術館敷地内奥山公園部分を現地視察し、本番に挑むため場所の特徴を掴ませる。		アー2 イー1
テーマを考える (2時間)	自分達の内面を見つめ直し、今の自分達だからこそ表現したい内容を思い浮かばせて、テーマを考えさせる。 また、決まったテーマを元に、具体的に意識する項目を考えさせる。	自分達3年生が置かれている環境を客観的に捉えるため、多面的に意見を出し合い、まとめる。	イー1
内容や衣装を考える (2時間)	テーマに合ったパフォーマンスの内容や衣装を、作家の作品を元に、考えさせる。	具体的に意識する項目に沿って、どういう可能性があるのかを、話し合いの中からアイデアをまとめる。	イー2
内容と衣装の確定 (1時間)	テーマを考慮し、どのパフォーマンス、どの衣装で行うのが、一番観客に伝わるのかを考える。	全体場で意見交換や修正を行う。	イー3
下準備と練習 (2時間)	新聞の大風呂敷を作らせる。動きを理解させる。		アー3 ウー1
個人パフォーマンスタイムの創作 (1時間)	個人で行う身体の動きのパフォーマンスを、テーマに沿った形で、創作させる。	テーマに沿ったパフォーマンスをするには、どうすれば良いのかを話し合う。	イー4
舞台本番 (4時間)	リハーサルで本番の確認と士気を高めさせる。観客に向けてテーマを意識して本番をさせる。		アー4 ウー2
鑑賞 (1時間)	本番のビデオを鑑賞し、テーマに沿った振り返りと今後の展望を考えさせる。	活動を通して自分達が得たもの、感じたことを共有する。	イー2

## 6. 本時の学習

- (1) 主題 「個人の見せ場！マイパフォーマンスを創作しよう」  
 (2) 目標 テーマに沿ったパフォーマンスをするには、どうすれば良いのかを積極的に話し合う。  
 (3) 展開

生徒の学習活動	教師の指導・支援	備考
<p>◆本時のねらいを知る (5分)</p> <p>◆テーマを元に個人のパフォーマンスを考える (10分)</p> <p>◆班体型に移動と説明 (1分)</p> <p>◆班で発表させる (1人1分×4人)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆班員それぞれの考えたパフォーマンスに対してアドバイスをする (1人4分×4人)</p> </div> <p>◆班で出たアドバイスを整理し、そのアドバイスを受けて変更になったポイントも含め、個人のパフォーマンスを清書する。(10分)</p> <p>◆まとめ (4分)</p>	<p>◇個人のパフォーマンスを創作することを知らせる。授業前アンケートを3分で記入させる。</p> <p>◇あらかじめ予告しておいたので、少しはイメージが有るものの、どうして良いのか分からない生徒も少なくない。 ワークシートに沿って、①テーマを選ぶ②そのテーマのイメージを自分なりの言葉で説明する③そのイメージから考えられる身体の動きを思い浮かべる、の順に道筋に沿って考えさせる。 シンプルでも良いので、道筋に合ったイメージを順序立てて考え、進めていくように、先ず全体に、そして止まっている個人に説明する。</p> <p>◇班活動の体型に座席を整えさせる。</p> <p>◇自分が考えたパフォーマンスを道筋立てて説明し、実際に立ち上がり動きをして班員に見せさせる。 班員は、全員の発表が終わった後意見を言わなければいけないのだから、説明をきちんと聞くように説明する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◇各班員の考えたパフォーマンスの素案に、どこを直せば、もっと「らしく」なるのではないかとしたら、もっと面白いのではないかと。といったアドバイスをさせる。 観客が当日居ることを意識させ、できるだけダイナミックで動きのある、面白いものにするにはどうすればよいのか、という観点で考えさせる。</p> </div> <p>◇班で出た意見を、そのまま書くのではなく、要点を整理してワークシートに記入するようにさせる。 班員のアドバイスを元に、一段ステップアップできるように考えさせる。 アドバイスを受けても、初めに出たアイデアが良いと考える生徒に関しては、そのままでも良いものとする。</p> <p>◇この授業を受ける前と受けた後で、変わったことを確認するアンケートを実施する。 出たアイデアを振り返り、次回本番へ向けて確認する。</p>	<p>ワークシート (013) 配布</p> <p>ワークシート (014) 配布</p> <p>ワークシート回収</p>

## 7. 結果と考察

今回の実践の「パフォーマンス」は、飯村自身も初めての実践であり、またパフォーマンスというジャンルは、ファインアートとは言えない、現代アートの中でも特殊なジャンルであったため、手探り状態での出発。場所の提供を毎年快く引き受けて頂いている和歌山県立近代美術館学芸員教育普及課長奥村泰彦氏に、パフォーマンスの手ほどきを頂きながらの実践であった。

そんな中でも、教科テーマに掲げている「多面的思考で相互に制作の幅を広げる授業づくり」を中心に、実践をおこなった。また、大規模な授業展開だったが、基本となる軸は自分自身を見つめ直すという行為であり、自画像を描く行為そのものであると、捉えている。

生徒たちがパフォーマンスを選んだ理由が、ダンスなどをイメージしたものだったので、その後の活動の中で食い違いが生まれた。生徒たちに、しっかりと理解させてから、活動に取り組めなかったのが残念だった。

授業を通して、生徒たちは個々に、しっかりと自分を見つめ直すことができたのは良かったと思う。

アートパフォーマンスという特殊な方法で行なったので、わけが分からない・時間をかけてする価値がないという声もあった。内容もそうだが、学校全体の行事やバランスを考えて、計画を建てるべきだと感じた。

### アンケートの結果

実施後、当該学年の授業内で振り返りを行い、その後アンケートを行いました。総数…140

#### ◆テーマを意識して本番に取り組むことができたか

できた82 (58%)

できなかった4 (2%)

どちらでもない (40%)

#### ◆自分たちの気持ちが観客に伝わったと思うか

思う23 (16%)

思えない36 (25%)

どちらでもない (59%)

#### ◆パフォーマンス活動の意義（テーマや活動すること）に賛同できたか

できた57 (40%)

できなかった12 (8%)

どちらでもない (52%)

#### ◆パフォーマンスをする事に決まり、ダンス等派手な音楽と動きをするものだと思っていた (3)

→一般のイメージのパフォーマンスと、アートパフォーマンスの食い違いがあった

#### ◆どんな気持ちで取り組んだか

自分が思っていること、伝えたいことを、パフォーマンスでしっかり表現しようという思いと、155人全員で楽しいパフォーマンスにできればいいなという気持ちでしました (男子)

今までにやったこともなかったのでとても緊張しました。でもこういうことをする機会はあまりないので、楽しみにしていました (女子)

今回は、自分たちの未来についてを表現するという事だったので、観ている人にも行動で伝えられるように、一つ一つ考えながら慎重な気持ちでやりました (男子)

中学3年の今だからこそ感じる不安だったり、期待だったり希望が観ている人たちに伝わったら良いなと思っていました。でも直前まで伝わるかドキドキでした (女子)

自分の今の思いをしっかりとうけとめて、その思いをパフォーマンスで表現しようと思いました (男子)

後輩やお客さんの前で見せるので、皆に「しっかりこのパフォーマンスの意味を伝えるぞ」という気持ちで全力で取り組みました。理解できなくても楽しんでいってほしいなと思いました (男子)

今の自分の思いを仲間と共に表現し、皆さんに伝えられたらいいなと思いながら取り組んだ。皆が一緒

の思いで団結すればきっと良くなると思った（女子）

◆パフォーマンス終了後の率直な感想

学年全員で何かを表現したり作り上げることは今までになかったので、終わった時の感動はすごかったです。卒業前に皆でこんなことができ良かったです（女子）

とても楽しかったです。練習で一列になるところとか、あまり上手くできなくて心配だったけど本番で上手くいけて良かったという安心と喜びが大きかったです（女子）

練習の時にいくつか変更があったりしましたが、しっかりと行動と表情で表すことができたと思うので、良かったです（男子）

当日に練習して本番だったのでどうなるかと思いましたが、お客さんから最後に頂いた拍手で私たちのパフォーマンスへの思いがよく伝わったように感じました（女子）

思っていたより大変だったので、パフォーマンスの終了後はやりきった感でいっぱいでした、しかしあそこをああすれば良かったなどという後悔もありました（女子）

練習時間が少し少なかったので自分たちが伝えたかったことをしっかり伝えることができなかったと思うけれど、出来る最高のパフォーマンスができたので良かった（男子）

斜めの台地でずっと練習をしていたので足が痛かったけど、お客さんの拍手でその痛みも飛んでいった感じがしました（男子）

お客さんの笑顔が見られたので「パフォーマンスをやって良かったな」と思いました。でも「本当に伝わったのかな」という気持ちもありました（男子）

研究会での学び

■ 1日（和太附属中学校研究会）

和太附属中学校の掲げる研究テーマ「言語活動によるアプローチの方向性」が美術科としてダメ文字に置き換える作業は危険

芸術を言葉で分析して、言葉に置き換えて説明してしまった時点で、それはただの説明であり、芸術ではなくなってしまふ。

美術科で言う言語活動とは、色や形、そのものが言語活動として認識すべき事項である。

想いを文字に置き換えて、それから表現に変更する行為は非常に難しい。

本来は動きから考えたり、形やモノから発想し作り上げていくもの。

形やモノから発想し、形やモノに還っていくことが大切である。

■ 3日（近畿・東海サークル研究会）

今回の活動はアートと言えるのか？

現代アートは、評価が確立されていない部分もあるので、危険な部分はないか。という懸念がある。

当該活動以外の、授業で行なった作品等が見れば、全体が見れて良い。

全体の美術の授業の流れと、アート・プロジェクトとの位置着けをする必要があるのではないか。

学校全体の行事等と絡ませ、学校を動かすような活動ができないか。

訳わからん事させられたって経験も、人生の中で良い経験だよ。



